



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは。伊丸岡です。中間考査はいかがでしたか。そろそろ夏休み。休業中の長期貸出も行います。読書感想文の課題も出る学年(年次)もあるようです。たくさん利用をお待ちします。

ご指摘いただきました

前号で、

228 伝記本の棚を拭いていて、小学生の頃、ポプラ社の偉人伝記を...

という記述をしましたが、これは**289** が個人伝記、**281** が日本の伝記だというご指摘をいただきました。そのとおりです。ボクは、棚の本を見て書いたのですが、たぶん、この囲み付き数字をどこからかコピーしたときにそのままにしまったものと思われます。伝記は何番、なんて頭に入っているわけではありません。

また、「二海郡八雲町」に関連して、

229 地域関連の本を拭いていて...

という記述に対しても、これは**291** だというご指摘。その通りです。これも原稿を打つ際に間違えたものと思われます。**229** はアジア、ロシア史だとのことでした。

もう一つ、

請求記号291の棚には、日本や世界の「絶景」「秘境」本があり、

との記述に対し、**291** は「日本」の地理、地誌、紀行のみであるというご指摘。これに関して言うと、ちょっと言葉が足りませんでした。『日本の絶景&秘境』という**291** の付いた本があって、その同じ棚に世界の秘境本も並んでいるという意味でした。

さらに、「200番台」「910番台」、という言い方はしない、というご指摘もありました。そうなんです、知りませんでした。ボクはそこまで専門家ではないのですが、それにしても打ち間違いや言葉足らずなどで生徒諸君には間違った情報を提供しましたことをお詫びし、訂正致します。

ボクの目下の目標は、不完全な受け入れ処理本を発見し、本をきれいにし、汚い棚を拭き、きれいな図書館を目指すことです。はたして定年までに全部の棚をきれいにし終えられるだろうか？ それが目下の心配事です。

こんな本を見つけました 東海林^{しやうじ}さだお

日本作家別単行本の本拭き棚拭きも「一日一棚」のペースで、「ほ」まで進みました。そんな中、「東海林さだお」氏の『アイウエオの陰謀』(作家別単行本の棚「し」)を見つけました。

東海林氏は漫画家にしてエッセイスト。かの Wikipedia にはこんな記載もありました。

高島俊男は東海林の文章を「二十世紀日本の文章の天才をたった一人あげろ、と言われたらわたしは、『太宰治』と答えるに躊躇しない者であるが、それにつぐのはあるいは東海林さだおではないか、と思っている」と、激賞している。

『アイウエオの陰謀』は、ある文芸誌に連載したエッセイをまとめたもので、1995年刊。本校図書館には「平成7年」受入れの押印があります。古い本です。

しかし、これが実におもしろい。「人体の言い分」では、心臓、胃、歯などがそれぞれの言い分を語ります。

こういう妄想ネタ、大好きです。高校時代に盛んに読んだ**星新一**のショートショートや、20年以上前に熱中した**原田宗典**のエッセイにもこういうのがあって、昔からこの種の文章が好きだったんだなあと思います。原田宗典は文体と言うよりも、文章の調子、「文調」とでもいうような独特のばかばかしい軽妙さが面白いところです。疲れた頭を一休みさせるにはいい1冊だと思います。五木寛之氏も「たゆまぬユーモアは頑健な体をしのぐ」と言っています。

第4号でも紹介した、**五木寛之の『大河の一滴』**が再ブームのようです。しかも、単行本、文庫本2種類が店頭に並んでいます。ロングセラー本であることは間違いなのですが、文庫版が出たら単行本は絶版になるのがふつう。不動の人気なんですね。



長期貸出案内 夏休み、身の安全と読書を

ことは夏休みも短縮となりました(これを政府は「夏休みの活用」と表現していました)が、やっぱり、長期休業中を活かして、本を読んでほしいですね。

借りて下さい。7月10日付で、21日(3週間)以上返却が遅れている人に「督促状」を出しました。これは、近く行く「夏休み長期貸出」に備えて、返しておいてもらおうという主旨で行ったものです。30冊ほどありました。早速協力をいただいたみなさん、ありがとう。

下記のとおり、夏期休業中の貸出を行います。昼休み・放課後に来館下さい。

貸出日 7月27日(月)～31日(金)

返却日 8月17日(月)始業日

貸出冊数 ひとり5冊まで



夏休み中も自転車事故には気をつけて下さいね。クルマはまず、信用しないことです。クルマは自己中心的に運転されている場合が多い、と心得ておくことが、身の安全を守ります。

たとえば法令通りに停止線できちんと停車したならばぶつかるはずのない検査点やT字路。それなのに運転者は自己中心で、自分が見える場所までグーッと出てくるから、横から来た自転車とぶつかる。

運転者が右左折しようとする際、クルマの後方から結構なスピードで接近してくる自転車を充分確かめないで自己中心に右左折するから、自転車とぶつかる。



だいたい、クルマの運転者の不注意なんだけれど、自転車に乗るきみたちは、このようにクルマを信用せずに、常に注意深く走行するクセをつけなくてははいけません。クルマの運転者は注意散漫かも知れない、考え事してるかも知れない、ケータイで電話してるかも知れない、飲酒運転かも知れない、アクセルとブレーキの区別が付かない人かも知れない、などと注意深く疑って、クルマの接近、クルマの飛び出し、クルマの右左折に気をつけてもらいたい。

図書館からのお知らせっぽくはないかも知れないが、高3の夏、小石をよけた瞬間、前輪だけが外れてスーッと飛んでゆき(分解掃除した後、前輪のホークを締め忘れたらしい)、全身路面にたたきつけられ、辛いひと夏を過ごしたボクの体験からも、チャリの安全運転には声を大にして呼び掛けたいと思うのであります。

同世代が贈る絵とエッセーと短歌

キミたちと同世代の人が、絵を描き、詩文をしたため、歌を詠む。何でもないことのようにだけれど、日々、生きることの悩みや迷い、苦しみ、そして喜びを、絵や詩文や短歌に、なかなか表現できませんね。廊下・階段にはいろんな作文や詩歌などの作品募集ポスターも掲示されています。プロが生業として作り出したものではない、同世代の生の声を、ぜひ感じ取ってほしい作品集を3冊、紹介します。探してみてくださいね。

『19歳の叫び』 奥井理 北海道新聞社 請求記号916 (作家別単行本の棚「お」)

奥井理くんは、1976年札幌市生まれ。札幌西高を卒業後、美大受験を目指し、東京の美術予備校で勉強中、交通事故のため死去。19歳。

この詩画集は、かれの生前の遺作と遺稿をまとめたもの。みなさんと同じ年代の悩み、感受性、喜び、憤りなどが一杯に詰まっているものです。何のために生まれ、何のために生きるのか。そう思い悩んだのは、アンパンマンばかりではない。ご両親が序文を書き、奥井くんへの手紙として一文を寄せている彫刻家・鈴木吾郎氏はかつてボクの同僚であった方。



『17歳のポケット』 山田かまち 集英社 請求記号911 (作家別単行本の棚「や」)

山田かまちくんは、1960年群馬県高崎市生まれ。かまちは本名。高崎高校1年の夏、自室でエレキギターの練習中、感電死。17歳。かれも多くの絵やデッサン、詩や文章を残しており、やはり、生きることに真剣に向かい合った跡が胸を打つ。歌人・俵万智が序文を寄せている。ご両親が「山田かまち水彩デッサン美術館」設立。

本校にあるのは変型版の単行本ですが、集英社文庫からも出ています。ただし残念ながら現在どちらも絶版のようです。でも、こうして図書館で見ることがができるのは、やっぱり図書館ならではの、です。

『もし君と結ばれなければ』 岡しのぶ ネスコ 請求記号911 (作家別単行本の棚「お」)

副題に「飛び立てぬ19歳の歌集」とあります。作者の岡しのぶさんは1976年生まれ、旭川高専在学中、16歳から短歌を制作。初の作品集がこの本。巻頭一番に掲載の次の短歌はなかなか衝撃でした。17歳の作。

触れてよと願う心に手のとどかず触れるのはどうでもいいようなたとえば乳房

総ルビ本

本の清掃修行中、妹尾河童の『少年H』上・下を見つけました(請求記号913) (作家別単行本「せ」の棚)。少年の目で戦争の時代と戦後を描いています。8月15日には終戦記念日(75周年)を迎えます。この夏、戦争や平和に関する1冊、いかがでしょうか。

この本の目次のページには、次のような「おことわり」という文が添えられています。

この本は総ルビに近いほど、漢字という漢字にルビをふりました。大人の人には、煩わしいでしょうが、勘弁してください。昔の本には、こんな風にすべての漢字にルビがついていたお蔭で、ぼくは大人の本を読むことができたし、漢字を覚えることもできました。

ぜひ少年少女にも読んでほしいという思いをこめて、昔のような本にしました。寛容な心でお許しください。
妹尾河童



現在は講談社文庫として刊行されていますが、文庫版も「総ルビ」です。ルビというのは元々印刷所用語で、読み仮名のこと。戦前の刊行物には、ほぼすべての漢字に読み仮名が付けられていた(本でも新聞でも)。これを「総ルビ」といいました。

それで、河童さんの言うように、昔の人は大人から子どもまで、新聞をはじめ様々な書籍を、一応読むことはできたのです。たとえ意味がわからない語句があっても。読みがわかれば辞書で確かめることもだれかに聞くことも可能でしょう。そういうわけで、昔の人は、新聞を読むのにも、ぶつぶつ声を出しながら読んでいたそうです。そうしてともかくも、漢字の読みだけは読めた。読める漢字が増えていったわけです。

戦前は、当用漢字(常用漢字)などという漢字使用制限がなかったから、無制限に難しい漢字が使われていた。しかも、旧字体といって、画数の多い、複雑な字体が多かった。それでも「読める」漢字は格段に多かったのは、「総ルビ」のお蔭だった。そういう時代の雰囲気も、この「総ルビ本」は醸し出しているのかもね。

ボクは「総ルビ」賛成です。できれば漱石も鴎外も龍之介も、当時の漢字表記のまま「総ルビ」にしてほしい。わかりやすいようにと、漢字も仮名も書き換えてしまうのは、なんだか間抜けでよろしくないと思っている次第。

なお、総ルビとは異なるが、つい最近まで、「歴史的仮名遣い」にこだわっていたのが、作家・丸谷オ一。作品の多くを歴史的仮名遣いで発表しました。歴史的仮名遣いもみなさんには縁遠いようだけれど、古文漢文をたくさん音読すれば、自然と目にも耳にもなじんでくるものです。なじめない人はまだまだ勉強が足りない(読む、という基礎的な勉強が足りないということ。目で追っているだけではただ「ながめている」だけのこと。声に出したり手で書き出したり、身体に刻み込んでこそ「勉強」なのです)。

イソップを、よりおもしろく

田辺聖子の『私本 イソップ物語』も非常におもしろい(請求記号913) (作家別単行本「た」の棚)。そもそもみなさんが知っているイソップ物語というのは、幼児向けに優しくかわいらしくアレンジされたソフトタッチの寓話だと思いますが、じつはなかなか残酷だったりします。おせいさん(田辺聖子)のこの本は、さらに一歩進めて、妄想風にアレンジしたもので、たとえばこんな風にオオカミの悲哀が語られる。

「狼が来たあ!」と叫んで大人をかついで喜んでいた少年も、今は自分が大人になってしまってそんな阿呆をやらなくなった。狼にとって幸せな蜜月の時代はすでに終わり、生きにくい末世となっているのである。



声に関する本は

「声」に関する本は無いかな。「声」「音読」「朗読」の3語でそれぞれ、コンピュータで蔵書検索をかけてみた。すると、「声」で6件(冊)、「朗読」で3件(冊)。「音読」ではヒットしませんでした。

声を文字で説明する、ということはどんなことになるのだろう…。朗読の上達法はあるのだろうか…。

コンピュータの蔵書検索では、「書名」「著者名」そして、「件名」での検索が可能です。こういったことに関する本は無いかな、というリクエストにお答えできますので、気軽にカウンターへ。

使えない本が多いわけ

～永嶺図書館版・たぶんこうだったんじゃないか劇場(「チコちゃん」をまねてみた・・・)

本校図書館の蔵書は、基本的に「凌雲高校」の蔵書を引き継いでいます。4年前に統合した「東栄高校」からは300冊ほど引き継いでいます。現在の総蔵書冊数は、約3万5000冊(うち公費購入分は約1万冊。公費というのは道費。道費以外の購入図書というのは、かつてPTA費などで購入された図書。実はこちらによる蔵書冊数の方がはるかに多いのだ)。

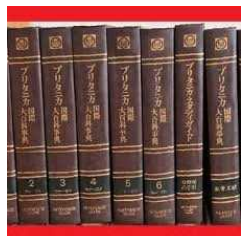
凌雲高校は1983(昭和58)年の開校。蔵書に押されている「受入印」を見ると、昭和年間(昭和58～63年の5年間ほど)の受入れ本が結構あります。が、それらは得てして現在の生徒諸君ならびに先生方の研究用としてもいささか古色蒼然、利用価値の低いものと言わざるを得ないものが多数見られます。否、当時としてもそれほど必要度の高い本だったとは言えないような気がします。

その理由として考えられることは、一つには、開校後できるだけ早く学校図書館の体をなすために、蔵書冊数をそろえようとしたのだろうということ。その際、学校図書館協議会という団体が示す、十進分類ごとの標準比率に沿った蔵書配分にしようとしたのだろうということ。二つ目には、前にも書きましたが、昔はPTA費で図書を購入していました。ですから、話題の本、人気のある本は複数購入したり、定期刊行物(雑誌)も何種も購入できていた学校図書館が普通だったと思います。でも、あるとき、あるきっかけから、学校の備品である図書を私費(PTA費)でまかなうのはまかりならん、図書購入は公費のみいい!ということになりました。

そういうわけで、なんでこんな事典類があるの? なんでこんな全集があるの? なんでこんなに複本があるの4? というような蔵書がけっこうあったようなんです(以上、ボクの推測ですけど)。

それにしても、いちど辞典(通称コトバテン)・事典(通称コトテン)類の棚を見てご覧。すごいコトバテン・コトテンが並んでるよ!

コトバテンでいえば、こちらはけっこう充実しています。最大級の国語辞典『日本国語大辞典』(全14巻。小学館)、最大級の漢和辞典『大漢和辞典』(全13巻。大修館書店)、英英辞典の『オックスフォード英語辞典』(全20巻)、その他、ことわざ辞典や故事成語辞典、漢詩名句辞典、反対語辞典、古語辞典、などなど、国語や英語に関する辞典類はかなりあるのではないのでしょうか。持ち運びには不向きな、どでかい版ですが。ほかにも、手話辞典、日中辞典、朝鮮語辞典、仏和辞典、和露辞典、ポルトガル語辞典、などなど。



コトテンでいえば、ブリタニカ世界百科事典、万有百科事典、日本大百科事典(ニッポニカ)などなど。百科事典も結構面白いものです。70～80年代頃にはこうした家庭用百科事典の訪問販売がさかんに行われ、購入したニューファミリー(核家族)も多かったようです(うちにはなかったけど)。情報としては古くなったものも多いのかも知れませんが、百科事典というのはなかなか優れたものでもあります。たまにはWikipediaを離れて、紙の、図版や写真も鮮やかな百科事典をひもとくのも乙ですよ。その他、いろんな専門的なコトテンも多い。

夕日に「ばえる」?

中学3年生の国語の問題。「『(夕日に)映える』に読みがなをふりなさい。」

全員が「ば(える)」と答えたそう。

6/13朝日新聞 be に載ってました。

新聞切り抜き読み 大特集

▼「夏休みの短縮、必要？」 6/26 朝日新聞

「必要派」は、「長い時間で学びが身につく子がいる」とする。「不要派」は、「通学の自由度高めるきっかけに」とする。賛否両論が併記されています。新・大学入学共通テスト(国語)では、いくつかの文やデータを同時並行で読み取っていくという、読解、情報処理能力が求められ、そうした意味でも、一つのテーマを多角的に論じられた文を読むというのは、よい訓練になると思うな。

▼「『お疲れさまです』考」 7/4 朝日新聞

日ごろの会話や、メールの書き出しによく使われるようになった「お疲れさまです」。たしかに便利ですね。賛否両論あるようですが、旅行作家の哈日杏子さん、社会言語学者の倉持益子さん、落語家の立川談修さんの3人が記者に語ったものをまとめています。こんな考察も新聞ならではの記事だと思います。読んでみませんか？読んで考えてみませんか？

▼「休校明け1ヶ月 教室訪ねると…」 7/12 朝日新聞

コロナ禍による長期休校が明けて1ヶ月余り。新聞記者が神奈川の小学校を訪ねたそうです。4年生37人のクラス。机の間隔を測ったら42cm。文部省の衛生管理マニュアルでは「1メートル」空けるのだとか。すると机は教室からはみ出してしまふ。給食や休み時間のようすも取材していました。

本校を見ても、授業中はたしかに大声は出さない。隣との会話もしない。でも、休み時間になったら、廊下は超混雑、教室・階段は超密接の大声会話。本当はそれじゃいけないのかも知れませんが、しかし、政府や役所のいうような「ソーシャルディスタンス」だの、「新しい生活様式」だの「ウィズコロナ」だのというのは、目の前の学校現場では空理空論にしか思えない現実がありますね。

▼「専修学校生 コロナ禍ずしり」 7/14 朝日新聞

新聞切り抜きの掲示板には、みなさんに関わる進路関係も取り上げています。今回気になったのはこの記事。

5月前半に東京都内の専修学校・各種学校の学生が入学を辞退したり中途退学した人がいる学校は50%を超え、200名近くの数になるということです。ある学校の幹部は「大学と比べ所得の低い層も多く、アルバイト収入が減った影響をもろに受けている。学校が独自で学生支援をする財力もないので、倒産する学校が増えるだろう」と言う。専修学校・各種学校は、学校教育法に定める「学校」に含まれないため、認可は都道府県。そのため国の支援制度から抜け落ちることが多く、コロナ禍でバイト収入が激減した学生に現金10～20万円が支給される学生支援緊急給付金の対象からはずれる学生も少なくないという。今後、コロナ感染拡大の再来も見通せず、みなさんの進路に予想していなかったまさかの事態が立ちあがらないともいえません。予測困難な時代、と口にするのは簡単ですが、何が起きるかわからないという覚悟だけはしておいた方がよいかもしれません。まさかの困難に遭遇したとき、どう切り抜けるかを考えられることが大事なのでしょう。

▼「大学教授が『研究だけ』していると思ったら大間違いだ！」 7/11 朝日新聞

これは本の紹介です。この見出しがそのまま、本のタイトルです。大学の先生が、研究や教育(講義やゼミ)以外にも雑多な業務に追われているだろうことは、高校に勤務するものとしては想像に難くありません。でも、大学の先生もこうしてばやきたくもなるのでしょう。

この記事では、つぎのような内容を紹介しています。。

受験科目を絞るより視野を広げることが先。「理系こそ国語と英語、文系こそ数学と理科」、いろんな知識が必要になるから偏った勉強はせずに、全科目に興味を持つように勧める。基礎学力がないまま無理して現役合格すると、大学で成績が低迷する。

たしかに。国語が苦手だからと理系に進むのは実はあとで苦勞するに違いないと思います。受験テク的に言っても、文系科目のできない「純粋理系」よりも、理系科目はできて当たり前、プラス、文系科目もできます、という受験生こそ強いはず。

〇〇ができないから△△へ、という進路の選び方、すなわち消去法は、将来の可能性や人生そのものを消去法で狭めてしまうことになるのではないのでしょうか？ そうはいつても、そうそうオールマイティにはいかないか？

▼「高校普通科 新学科設置へ」 7/16 朝日新聞

中央教育審議会という文相の諮問機関が高校の普通科を再編する案をまとめたという。現在高校は普通科・専門学科(農工商など)・総合学科の3種があるが、高校生の7割が通う普通科を、地域探究学科(地域社会の課題に取り組む)や学際融合学科(SDGsなど現代的な課題に対応する教科の枠を超えた学びに取り組む)

む)に再編するという。各学校には「スクールポリシー」の策定や、大学・国際機関との連携、自治体や地元企業との協力体制の構築を求めている。学校の先生はますますいろんなことをやらねばならなくなりそうです。そして、みなさんが「高校生の親」となる頃には、みなさんが経験した高校の姿とは大きく変わったものになっているかも知れません。

それにしても次から次へといろんなことを考え出すものです。役所というところは常時「何かを変えなきゃならない」という遺伝子が働くところなのだろうか？だったら、「ソーシャルディスタンス」が保てるような、1教室定員30人、なんてことをまずやっていただくようには考えつかないものだろうか？

▼「化学繊維 海洋汚染に影響」 7/6 北海道新聞

7月から「レジ袋」有料化となりました。巷間では賛否両論あったようですが、「海洋プラスチックゴミ」は巡り巡って人体にも影響があるという話になってくると、やはりプラゴミは減らさないわけにはいかないでしょう。

今回の記事では、なんと洗濯の際に化学繊維から出る微細な「マイクロプラスチック」が、排水に混じって海洋に出るという驚きです。しかし、いまや化学繊維製品を身につけないわけにはいかないでしょう。また、繊維くずは空中にも漂うことから、ハウスダストの影響も否めないという。いやはや、化学工業が発達し、生活が便利になったのはいいが、やがて100年単位での将来、子孫に悪影響が出ないことを願うばかりです。

▼道新「ぐんぐん」 7/7 7/14 北海道新聞

1年生には「授業理解の4つのコツ」 1～3年生には「小論文上達の極意」

道新毎(火)に「まなびのひろば ぐんぐん」という特集面があります。

今回は、標記のようにまず「授業理解の4つのコツ」がためになると思います。(1)授業中は先生の表情を見る、(2)きれいなノートは後で作る、(3)予習する(各教科5～10分)、(4)席が選べる場合は前方に座る、ということだ。

本校生の場合、これに、(0)授業に必要なものは完璧に用意する、を加えたい。

授業で見ていても、毎回、便覧、古文文法書、漢文文法書に、教科書、ノート、辞書と、漫然とすべてを机に上げている諸君がいる。いま、何の授業(現代文なのか、古文なのか、漢文なのか)で、何が必要なのか意識することがまず、授業に臨む第一歩ではないだろうか。そして、配られたプリント類をなくさず忘れず準備する。授業が始まってから「忘れました」と言って授業を中断させるのは、他のクラスメートの迷惑にもなるでしょう。

「小論文、作文上達の極意」の方は、3年生に限らず、多くの諸君に読んでもらいたい。

名作渉猟 8月は「葉月」

サーカス

幾時代かがありまして

茶色い戦争ありました

中原中也

なかはらちゅうや

中原中也は1907(明治40)

年、山口県、現在の湯田温泉で生まれました。当地には立派な記念館が建っています。詩集『山羊の歌』『在りし日の歌』など。息子がわずか2歳で小児結核のため死去。嘆き悲しんだ中也自身も衰弱し、息子の後を追うようにして翌年、結核



性脳膜炎のため死去。30歳。1937(昭和12)年のこと。

石川啄木も肺結核のため26歳で落命しています。啄木の家族は何人もがばたばたと肺の病に倒れています。昔は、結核で命を落とす日本人は多く、国民病とまで言われていました。

ところで、掲載の詩は『山羊の歌』のなかにある「サーカス」という詩の冒頭部分です。「茶色い戦争」とはどの戦争のことなのでしょう。また、戦争を「茶色い」と形容したのは、どんな意図があるのでしょうか。このフレーズは大変有名で、あちこちで引用されることがあります。8月は特に戦争や平和について考えましょう。

中原中也の詩は、『中原中也詩集』『汚れつつもつた悲しみに 中原中也詩集』という、2冊の文庫本(文庫の棚「な」)、他に単行本や全集系にも見つけることができます。



夏休みを機に、新書を手にとってみないか？

前にも書きましたが、新書で「ワンテマ」について考察してみませんか？ ボクはかつて、『**バナナと日本人**』（岩波新書・黄色版）を読んで、なるほど、いまや年中食べられるようになったバナナはこうして日本の食卓に届いているのか、ということにいたく感心した覚えがあります。世の中には（当然のことながら）知らないことが多い。一つでも二つでも、こうやって新書で知りたい、と思うようになった1冊でもあります。

2000年代になってからであったか、「新書ブーム」が到来し、たくさんの出版社がたくさんのレーベル（シリーズ）を競って出すようになりました。各社それぞれの色や趣向があって、おもしろいものです。

本校図書館では、岩波新書がもっとも数多く所蔵していますが、岩波新書は老舗だけれどやや難しいかも知れません。それに比べて、「岩波ジュニア新書」そして「ちくまプリマー新書」あたりは、高校生にはお勧めです。ぜひぜひ、この夏休みに新書デビューしてほしい。活字を読み、考える人になってほしい。

『**答えは本の中に隠れている**』（岩波ジュニア新書／同書編集部編）は、12名の執筆者がそれぞれの考えを書いています。

第1章には「生きることを楽しみたいとき」、第2章では「ネガティブ思考に陥ったとき」、第3章では「将来を考え始めたとき」とあり、中には「もしあなたのバイトがブラックだったら」なんていう項目もあって、興味がそそられます。巻末には「セレクトブックリスト」が付いており、各執筆者がお勧めの本がずらりと並ぶ。こういう本を手がかり、とっかかりにして、「本を読む人」になっていくのもいいよね。小論の勉強にもなるし、自分の読書アドバイザーにもなる、格好の1冊になると思います。



意外と本はある

ボクも従前は、高校の図書室なんてそれほど本はない、なんて高をくくっていたのですが、日々1冊ずつ本の清掃修行をしていると、この本読んでみたいな、というのがすでに20冊くらいはありました。

また、あれ、こんな本が出版されていたんだ、個人的に購入しよう（実際、購入したものもあります）、という本や、あれ、この字典、改訂版が出ていたんだ、買い直そう、といった発見が何件もありました。

また、あれ、こんな古い作品（絶版になって久しい）が、こんなところで読めるんだ、なんていうのも見つけて嬉しくなったこともあります。

たとえば、こんな本も。

『**愛、深き淵より。**』（立風書房 作家別単行本「ほ」の棚）、『**かぎりなくやさしい花々**』（偕成社（同じく作家別単行本「ほ」の棚）は、いずれも**星野富弘**さんの著作です。あの、優しい花の絵に添えられた詩画集を多数世に出されてきた方です。中学の体育教師だった星野さんは、放課後の部活動中、首から下が不随となる大事故に遭いました。その経緯やその後について書かれた本です。いずれも初版から10年内外で100刷以上の増刷を重ねたことが、奥付によってわかります。偽安楽死事件が起きましたが、絶望の淵にありながら生きることの厳しさと尊さを学ぶことができます。読んでみませんか？

夏休み中も、可能な範囲で図書館は開けています。昨年度、一昨年度（H30・R1年度）の受け入れ本の多くの受付印に、日付が入っていない、登録番号が記入されていないという、不完全な形で本棚に格納されてしまっているの、見つけ次第補完する作業もしています。だいぶん直しましたけれども・・・。

意外に本はあるんです。掘り出し物もあるんです。本棚をなめるように見てご覧（なめてはいけません、念のため）。発見があるかも知れません。出会いがあるかも知れません。

そうだ、図書館に行ってみよう！

（文責 伊丸岡圭一）

※旭川市中央図書館からのお知らせ

「月曜開館」＝8／10（月・祝）＋8／11（火）～祝日開館の代休ですが開館＋8／17（月）
その他、休館日や開館時間の詳細は、本校図書館入口と職員室入口にポスターを掲示しました。

ELSN ~Eiryo Library Station News~

北海道旭川永嶺高校図書館便り 第1号 2020年7月30日

ご挨拶

皆さんこんにちは。永嶺高校でも(自称)最も影の薄い!? 図書館が図書室や本の情報を皆さんにお伝えするごくごく真面目な機関紙です。※ YKK は実は今まで顧問の伊丸岡先生が一人で書き上げたものなんです!! 話がそれましたが初号では図書館員が!永嶺高校の先生に聞いてみた!シリーズ第1回を行いたいと思いますのでここで読むのをやめずに下の特集まとめへ Go!

第1回! 図書館員が!永嶺の先生に聞いてみた! 山田温隆先生編

先生方には事前アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

先生方には・普段読む本のジャンル・高校時代読んでいた本・生徒に読んでほしい本・本を読んでよかった点 などについて聞きました。

以下、第1回は、数学科の山田温隆先生です。

* 普段読む本のジャンルは?

→歴史小説、普通の小説

・取材をして歴史小説は戦国時代や幕末が読むことが多かったようだ。戦国時代はどちらの陣につくかの読み、負けたときに一族が減ぶドキドキ感 幕末は20歳半ばの偉人たちが何か行動を起こす面白さが好きなようだ。



▲今回取材を受けてくださった山田温隆先生

* 高校時代読んでいた本は?

→三浦綾子、司馬遼太郎など

・三浦綾子の「道ありき」三部作が先生が一番最初に読んだ小説で三浦が最初に書いた歴史小説「細川ガラシャ夫人」や「銃口」という小説を先生が高校時代悩んでいた時読んでいたらしい。

* 最近本を読んでいますか?

→最近読書をする時間が取れないが栗山監督の「栗山ノート」を途中まで読んでいた。

・栗山監督は白鷗大学の教授をしていたこともあり、先生は監督の生き方や言葉が好きなようだ。

* 生徒に読んでほしい本は?

→三浦綾子、司馬遼太郎、ダン・ブラウン

・三浦綾子は旭川出身なのでぜひ読んでほしい。また長編だが司馬遼太郎、ダン・ブラウンの「ダヴィンチ・コード」などのラングドンシリーズがおすすめ。最後に本を読むと心が豊かになる。無駄になることを知ることが大切だとおっしゃっていた。

以上温隆先生編でした。

お忙しい中、インタビューの時間を割いていただき、ありがとうございました。

【このページは、図書館作成】